

頑張る

# 農業法人

圃場(ほじょう)整備完了をきっかけに、農地の受け皿として営農組織化し、さらに集落営農の維持や後継者育成に向けて組織強化を図るため法人化をした、福知山市観音寺地区の農事組合法人「観音寺」。13鈔余りで水稲を作付する。

代表理事組合長の大槻勝美さん(67)は「法人化すると農地の集積ができ、後継者育成にもつながる。今後も地域農業振興に向け頑張りたい」と話す。

同地区は綾部市に接する福知山市の東部。228戸のうち100戸が農家。由良川に近く、水田が広がる。以前は昔ながらの小さな農地ばかりだった。隣接の興、石原の両地区と合わせた74

鈔の圃場整備が1992年度に府の事業で始まり、96年度に完成した。圃場は最大で1、2鈔の大区画となった。一方、高齢化が進む同地区では、管理できない農地の問題が浮上してきた。この受け皿として、管内の大半の農家が参加して、観音寺営農組合を結成した。当初3鈔からスタートし、その後増え続け、現在では20鈔余りの農地を集積し、13・4鈔で水稲を栽培している。田植えや稲刈りの農作業を受託し、残りは飼料用の牧草作りを市内の牧場に委託している。

J Aや行政からアドバイスもあり「営農組合を法人化することで信頼性を高め、集落の農地をしつかり守ろう」と決意。2009年2月に92農家

## 農事組合法人 観音寺 福知山市



オペレーターとして第一線で頑張る大槻勝美組合長(左)と大槻睦夫副組合長

### 農地集積し集落守る

## 水稲の作業受託中心に運営

が参加し法人化した。理事は大槻組合長と副組合長の大槻睦夫さん(68)、会計担当の羽星利一さん(58)の3人。大槻さんは2人ともオペレーターも務める。田植え、草刈りなどの作業には、組合員をパートタイマーとして雇用する。

「人手不足で、野菜類などには取り組めない」と、現在も法人として水稲だけを栽培。「コスト低減を目指し、直まきにも挑みたい」と新たな方向に目を向ける。

さらに大槻組合長は「農家の若い人でも、最近では農作業をしない人が多い。後継者不足の中、法人として交流の場を設け、農業に関心を持ってもらう雰囲気をつくりたい」と意欲を示している。▽法人所在地 福知山市字観音寺59の3、電話 0773(27)2864。